

漫画家甲子園

第5回全国漫画家大会議の2日目、特設ステージで開催された漫画家甲子園。夏に開催されている「高校生まんが甲子園」の職業漫画家版で、事前に決められたテーマに沿って、チームで力を合わせて1枚まんがを描く団体戦の競技です。

対戦するのは、高知県チームVSぼけまんチーム。

高知県チームは、くさかり樹先生、ひのもとめぐる先生、正木秀尚先生、大沢俊太郎先生。

ぼけまんチームは、あおきてつお先生、本庄敬先生、はしもとみつお先生、てしろぎたかし先生、下條よしあき先生。

選手宣誓は、前日に包丁で手を切り、3針縫ったという、ひのもとめぐる先生。

「利き手じゃなくて本当によかった。今日はこの利き手で夢や希望、悲しみや絶望を描き、みなさまを感動させたい」と、声高らかに宣誓しました。



1回戦のテーマは「平成」。制限時間は30分で、高校生のまんが甲子園に比べるとわずか8分の1。司会の土佐かつおさんの「スタート!」の声で、両チーム一斉に机に向かいます。

ステージ上の大型スクリーンには、先生方の手元が映し出され、作品が仕上がっていく様子をリアルタイムで見ることができます。

鉛筆で「アタリ」といわれる簡単な下書きをして配置を決めたら、どんどんマジックで絵を描き足していくぼけまんチーム。一人ずつ分担して絵を描き、ハサミで切り抜いたパーツをボードに貼っていく高知県チーム。そのスピードの速さはさすが職業漫画家!

2分を残して先に完成したのは高知県チーム。ぼけまんチームも「締め切りは必ず守りますよ〜♪」と言いながら、制限時間内に完成。

高知県チームは、平成の名曲「だんご3兄弟」をモチーフに、土佐幕末の志士を描いた高知3兄弟。武市半平太、坂本龍馬、中岡慎太郎の顔が並んでいます。



ぼけまんチームは、悲喜こももいろいろなお話が詰まった平成を振り返りながら、次の時代へバトンをつなごうとひた走る天皇陛下の姿を描きました。

「パワーチャージ」のテーマで戦った2回戦は、両チームとも30分みっちり描き込んで仕上げへ。司会の土佐かつおさんのリードで、客席から「10、9、8……」とカウントダウンの声が響く中、ギリギリまで粘って完成しました。

高知県チームは、尾崎知事を真ん中に、牛乳瓶からたくさんの高知の特産品があふれだす作品。高知パワーをチャージできるドリンクは、103万円です。

ぼけまんチームは、温泉でパワーチャージしている龍馬とおりょうが、しんじょうくんにおまんも元気だせや」と語りかけ、お風呂に誘う場面。かわうそなのに「濡れるのはちょっと……」と、その困り顔が笑いを誘う作品です。



4つの作品が出来上がったところで、審査に移ります。

審査員はこの熱戦を見守った観客のみなさん。「それでは、勝ったと思う方に拍手してください」と、拍手の数を競います。拮抗しながらも、昨年に続いてぼけまんチームが勝利!3万円分の高知の特産品が贈られました。

お互いの健闘を称え、熱い戦いを終えました。

